

令和２年度 学力向上プラン

学校名 中央区立晴海中学校

学校の教育目標

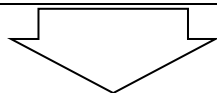
個人の尊厳を重んじ、平和で民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい、心身ともに健康で、豊かな人間性・確かな学力・創造性を備えた生徒の育成を目指す。そのために本校の教育理念として「共生」を掲げ、以下の目標を設定する。
教育理念 共生 LIVE TOGETHER MAKE A COMMUNITY
教育目標 ○健やかな人 ○思いやる人 ○考える人 ○創造する人

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

・生徒一人一人に応じた指導の充実 ・学習意欲の向上と学習習慣の定着 ・土曜日や夏休み等を活用した学習機会の充実
・ＩＣＴの活用と情報教育の推進 ・国際性をはぐくむ教育の推進

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	・「書く」ことでは、それぞれのテストや調査で平均を下回る結果がでた。特に1年生では「話し合いをもとに記事新聞を書く」や「作文」を苦手とする生徒がいた。2年生では、文字の認識が弱い生徒見られた。3年生は、自分の意見を明確に述べるのが苦手な生徒がいた。また「資料をもとに発表原稿を書く」や「作文」を苦手としている生徒がいた。	・小学校段階の読み・書きの基礎・基本が定着していない生徒が増えてきている。 ・学年が進むにつれて、発言や発表、話し合いなどの言語活動に消極的になりがちな生徒が増えている。
数 学	・1年生では、「数学的な技能」で基礎計算の定着ができていない生徒が1割ほどいた。「知識・理解」で速さや百分率などの割合の知識が不十分な生徒もいた。2年生では、1年生と同様に、基礎計算の定着ができていない生徒が一部見られ、「場合の数」や「比と比例・反比例」を苦手としている生徒がいた。3年生では、特に「数学的な見方、考え方」の1次関数の問題の正解率が低く、課題として考えられる。	・じっくり考えることが不得意な生徒が多い。 ・与えられたことはきちんと取り組もうとするが、自分で課題を見つけて学習することは苦手である。 ・家庭学習が不足している生徒が多く、定着が不十分な生徒も多い。
社 会	・各学年の「技能」では、それぞれのテストや調査で下回る結果がでた。1年生では、「資料活用の技能」以外に、「社会的事象についての知識・理解」が下回っていた。2年生は、「資料活用の技能」が大きく下回り、課題が見られる。3年生は、一番「技能」を課題にしているが、「社会的な思考・判断・表現」や「知識・理解」を苦手としている生徒もいた。	・学習意欲が高い生徒が多いが、既習事項の定着度があまり良くない。復習・スパイラル学習が充分とは言えない。 ・社会的な思考力・判断力・表現力が充分身につけている生徒が少ない。
理 科	・各学年「知識・理解」では、それぞれのテストや調査で下回る結果がでた。知識活用の定着率に課題が見られる。1年生では、論理的な思考が弱く、実験実技が苦手、活用が不十分な生徒が一部見られる。2年生では、「知識・理解」以外に「書く」ことも大きく下回っていた。3年生では、どの観点でも目標値より下回り、数学的な課題（計算や単位変換）や実験に関する技能に課題が見られた。	・入学時に既に理科に対する苦手意識をもつ生徒がいる。 ・理科に必要な予想する力、考える力、分析する力が充分身につけていない生徒が多い。 ・物理分野で特に必要とされる数学の力（計算能力、単位に関する知識など）が極めて弱い。
英 語	・各学年、どの観点も、それぞれのテストや調査では平均を上回る結果が出た。ただ、学年が進むにつれて、「自己表現」に個人差が見られ、3年生では、「表現の能力」で、自己表現を苦手とする生徒が一部見られる。積み重ねた知識を活用し、長文を読むことにまだ慣れておらず、知識を活用することに一部課題が見られる。	・4技能を授業で実践していく中で、「書く」ことの指導が「読む」「聞く」「話す」に比べ、時間的な配当が少ない ・個々の差もあるが、学習内容が定着できていないことが要因である。特に既習文法内容が定着できていない。
保健体育	・各学年新体力テストでは、全体的に向上したが、全身持久力が全国平均以下であったことが課題である。授業においては、個に応じた指導、ペア活動・グループ活動を中心に行っているため、保健体育の授業が楽しいと感じる生徒が多い。課題は自己やグループの課題を発見したり、比較したり、改善したりする等の思考を働かせて活動する生徒を増やすことである。	・得意と感じる生徒と、苦手意識をもっている生徒の差が大きい。 ・競技種目に対しては積極的に取り組む生徒が多いが、器械体操や陸上競技に対して消極的になる生徒が多い。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	・基礎・基本を定着させ、それを活用して思考力・判断力・表現力等を育てるための授業改善を継続し、授業評価で基礎・基本の定着について80%が肯定的に捉えることを目標とする。
② 授業改善	・教科横断的・縦断的な指導体制を策定し、「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や授業評価等に基づく授業改善を行い、全教科で全国平均を上回ることを目標とする。
③ 教員の指導力	・特色ある教育活動の「確かな学力の育成」を行うために、各教科等を有機的に関連付けた学習活動を展開し、自ら学び考える態度や確かな学力を身に付けさせる。授業アンケートで「授業規律が確立されている」「内容や構成はわかりやすく工夫されているか」の項目で、“あてはまる”・“ややあてはまる”の合計が85%を越えることを目標とする。
④ 家庭との連携	・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いので、「生徒の学習に関する意識調査」を行い、学習力サポートテストの各種データとクロスチェックの上、課題を明らかにする。また、個々の生徒のプロフィールを把握した上で適切な指導・助言を行い、生徒一人一人の学習意欲の向上を図る。 学校評価において、「通知表を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に行っている」の項目について、“あてはまる”・“ややあてはまる”の合計が85%を越えることを目標とする。
⑤ 体力向上	・新体力テストでは、全学年全国平均以上を目標とし、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。運動会、連合水泳・連合陸上、東京駅伝に向けた、体育的行事との取組に関連付けて、生徒の体力向上の意識を高めていく。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	・教科横断的・縦断的な指導計画を策定し、学習力サポートテストや生徒の授業評価等に基づく授業改善、校内研修を軸とする授業研究を進める。少人数指導、朝学習等のスパイラル学習、放課後質問教室や夏季補充授業などで基礎学力の定着を図る。
取組Ⅱ	・各教科で言語活動の充実を図り、教科等の相互関連性をおさえた全体計画を作成し、基礎・基本を活用して思考力・判断力・表現力等を培う学習活動を行う。総合的な学習の時間を軸に体験学習、探究的な学習、行事等における創造的な活動・協同的な学習での多様な表現活動に取り組む。
取組Ⅲ	・学習意欲を高め、学習習慣の定着を図るため、「生徒の学習に関する意識調査」「自尊感情に関する意識調査」を行い、学習力サポートテストの結果やI-check、都の調査とも関連付けて、個々の生徒を把握し、それを踏まえて各生徒への適切な助言・指導を行う。

②授業改善	
取組Ⅰ	・学習指導要領を踏まえた年間計画を通して、教科横断的・縦断的な教育計画を拡充する。各教科で学習した内容が他教科の学習に生かせるような横断的な取組を強化する。

取組Ⅱ	・確かな学力を身に付けさせるために、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るとともに、それを幅広く活用させる学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。5教科については、各授業、朝学習においてスパイラル学習を取り入れ、基礎・基本の確実な習得を図る。
取組Ⅲ	・「授業ダイジェスト」を継続し表現力を高めていく。ICT 機器の活用を進め、複数の資料に関連づけて多角的・多面的に考えさせる学習活動を一層工夫する。表現力の育成を図るためにグループ学習、ペアワークやグループワークを取り入れる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	・ICT 機器を活用した授業を推進し、生徒の学習活動を充実させるための指導力向上に取り組む。 ・考えさせる学習活動も引き続き充実させ、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
取組Ⅱ	・区非常勤講師の活用、少人数指導やTTによる指導を実践し、個に応じた学習の効果を上げる取組を推進する。 ・主幹・主任の教諭による若手教員のOJTに取り組み、指導力の向上を図る。
取組Ⅲ	・表現力を高める指導として、グループ、ペアによる学習を多く取り入れ、表現することに抵抗を少なくし、表現力を高める。 ・ICTを活用して、総合的な学習の時間に事前学習・事後学習を班単位で発表させる取組を行う。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	・家庭学習の習慣を定着させるために、適切な学習課題を工夫するとともに、学習習慣の定着に関する家庭への啓発を継続して進める。 ・「個人カルテ」をもとに、三者面談を行い、家庭との連携を深め、生徒一人一人に応じた指導・助言を行う。
取組Ⅱ	・毎日、取り組んでいるディリーライフや学校だより、学年通信を通して、家庭との連絡を密にし、学校で行われている情報を密に伝える。 ・運動会、文化祭の案内や、PTA パレーの参加を通じて学校への理解を深める。
取組Ⅲ	・土曜公開日を活用し、教育課程説明会、部活保護者会、シラバスの説明会、食育講演会や平日の給食試食会を実施し、学校への理解を深める。 ・放課後の補習や質問教室、夏季講習会への参加を呼びかける。

⑤ 体力向上	
取組Ⅰ	・保健体育授業において、単元に応じた準備運動、補強運動、整理運動を行い、生徒の基礎基本となる、体力の向上をめざす。
取組Ⅱ	・夏季休業中において、水泳教室を行い、運動能力の向上を図る。また、水泳教室への参加を促し、運動習慣を身につけさせる。
取組Ⅲ	・連合陸上大会へ向け、部活動と連携し、計画的に朝・放課後の練習を行い体力の向上を図る。 ・多様な運動に触れ、運動の楽しさを理解し、運動に取り組む意欲向上を図る。

各調査における平均正答率及び令和2年度 目標の設定

【学習力サポートテスト】

(%)

第1学年		平成30年度 (H31.1入力)	平成31年度 (R1.2入力)	令和2年度 目標 (R1.2入力)
国 語	参加校	62.7	70.4	言語についての知識・理解・技能がやや弱いところがある。豊かな語彙力をつけるように教材などを工夫していく。
	区	67.0	73.3	
	学校	66.4	73.3	
社 会	参加校	58.8	63.6	復習プリント、小テストの実施を行い基礎基本の定着を図り、区の平均を上回るようにする。
	区	57.5	65.2	
	学校	57.4	64.2	
数 学	参加校	72.8	71.9	全観点において目標値と同等であるので、技能と見方や考え方の観点を重点に置き、技能は75ポイント、見方や考え方は70ポイントを目指す。
	区	72.9	74.5	
	学校	72.3	72.9	
理 科	参加校	58.6	61.4	問題演習のスパイラル学習を行い、区の平均を超えることを目標にする。
	区	53.5	59.1	
	学校	51.4	58.0	

(%)

第2学年		平成30年度 (H31.1入力)	平成31年度 (R1.2入力)	令和2年度 目標 (R1.2入力)
国 語	参加校	64.2	66.4	読む力が低いところがあり、読解力を鍛えていく。そのために、より多くの文章に触れ、読み方を教えていく。また、基礎的な語彙力も高めていく。
	区	67.8	68.8	
	学校	66.1	68.0	
社 会	参加校	54.8	65.0	資料活用の技能を伸ばすため授業内で複数の資料を活用する場面を多くする。
	区	53.0	63.6	
	学校	52.6	62.8	
数 学	参加校	58.1	53.7	関心・意欲が低いので、関心意欲40ポイントを目標に、数学に興味を持たせるような授業改善を行う。
	区	64.7	56.6	
	学校	62.5	55.4	
理 科	参加校	53.7	58.6	問題演習のスパイラル学習を行い、区の平均を超えることを目標にする。
	区	51.8	56.8	
	学校	48.9	52.9	
英 語	参加校	51.6	61.5	書くことを中心とした表現活動を強化し、同時に読む力を伸ばす。
	区	63.0	64.4	
	学校	61.6	64.4	

(%)

(%)

第3学年		平成30年度 (H31.1入力)	平成31年度 (R1.2入力)	令和2年度 目標 (R1.2入力)
国 語	参加校	62.9	68.3	書くことの観点が向上するように単元ごとに文章を書く課題を与える。構成に着目し、論理的な文章を作る手立てなどを工夫する。
	区	65.3	72.2	
	学校	65.7	69.4	
社 会	参加校	62.7	54.9	社会事象を身近に捉えさせ思考力・判断力を伸ばす授業を展開した。今後の伸びに期待する。
	区	60.4	53.2	
	学校	61.6	49.1	
数 学	参加校	55.4	56.1	技能については良い傾向であるので、知識や技能を活用した課題解決型の授業を多く取り入れ、見方や考え方の育成を行う。
	区	57.5	61.4	
	学校	56.9	61.2	
理 科	参加校	49.0	55.9	問題演習のスパイラル学習を行い、区の平均を超えることを目標にする。
	区	45.8	52.7	
	学校	45.7	50.4	
英 語	参加校	58.9	60.8	語法の知識理解や英作文において区の平均を特に下回っている。ICT 機器を活用しつつ、ALT と連携して日頃から英作文に関する指導と、語法の定着を図る活動を充実させる。
	区	67.6	66.9	
	学校	66.2	65.6	

【東京都学力向上を図るための調査】

(%)

第2学年		平成30年度 (H31.1入力)	平成31年度 (R1.2入力)	令和2年度 目標 (R1.2入力)
国 語	都	72.5	71.7	読解力を高めるために、小説などの読み取り方を身につけさせる。
	区	73.8		
	学校	70.5	70.9	
社 会	都	60.3	50.9	社会事象を身近に捉えさせ思考力・判断力を伸ばす授業を展開する。
	区	61.9		
	学校	58.8	50.6	
数 学	都	53.0	52.9	思考・判断・表現では都を1.5ポイント下回っているので、数学的活動をより多く取り入れた授業改善を行う。
	区	55.7		
	学校	52.3	53.0	
理 科	都	52.5	49.3	都平均を上回り、学力が向上しているので引き続き問題演習のスパイラル学習を行い、との平均を1点以上上回ることを目標にする。
	区	54.2		
	学校	52.4	49.5	
英 語	都	56.7	55.9	文章を読み書き、問題を解決する力が不足しているということが分かった。今
	区	58.7		

	学校	5 6 . 8	6 1 . 5	後、授業において読解問題を定期的に扱い、それに関する英語の質問に答えるなどの英作文を書く活動を通して表現力を養わせる。
--	----	---------	---------	---

【全国学力・学習状況調査】

(%)

第3学年		平成30年度 (H31.1入力)	平成31年度 (R1.2入力)	令和2年度 目標 (R1.2入力)
国語	国	7 6 . 1	7 2 . 8	語彙力の向上に力を入れ、登場人物の心情や場面展開を正確に読み取る力を付ける。また、自身の考えを「話す」「書く」といったさまざまな観点で表現する力もつけていく。
	都	7 7 . 0	7 4 . 0	
	区	7 8 . 3		
	学校	7 6 . 0	6 9 . 0	
数学	国	6 6 . 1	5 9 . 8	D 資料の活用の領域が他の領域と比べて低く、都よりも4.0ポイント低い。年度の最後に行う領域であるが、それまでも計画的に、課題に取り入れていく。
	都	6 7 . 0	6 2 . 0	
	区	6 7 . 2		
	学校	6 4 . 0	6 1 . 0	
英語	国		5 6 . 0	文章を読み書き、問題を解決する力が不足しているということが分かった。今後授業において読解問題を定期的に扱い、それに関する英語の質問に答えるなどの英作文を書く活動を通して表現力を養わせる。
	都		5 9 . 0	
	区			
	学校		6 2 . 0	